

# 日本社会における韓国出身交換留学生 の異文化理解に関する一考察

安 龍洙\*

(2018年10月1日受理)

## An Analytical Study of Intercultural Understanding of Exchange Students from South Korea Living in Japan

Yong Su AN\*

(Received October 1, 2018)

### 要旨

本研究では、韓国人交換留学生3名を対象に留学終了直前にPAC分析法による日本社会における異文化観についての調査を実施し分析を行った。その結果、日本社会については「ルールが守られている社会」、「安心・安全できる社会」というイメージを有していること、日本人については「親切で優しい人」、「個人行動を好む人」として捉えていることがわかった。被調査者自身の振り返りによる来日前後の変化<sup>1)</sup>については、「日本人の個人主義」は来日後の体験によりネガティブなイメージがポジティブなイメージへ変化しているが、「日本の交通の安全性」「個人行動する日本人」「日本の気候」「物価の高さ」などは、来日前後でイメージの変化がないことがわかった。また、被調査者から得られた連想イメージのほとんどは実際の経験に基づくもので、「約束を守る日本人」「親切的な日本人」などに関してはプラス評価をしているのに対して、「目立つのを嫌う日本人」「日本人の仕事の遅さ」「本音と建前を使い分ける日本人」などに関しては、マイナス評価をしていることがわかった。

【キーワード】 韓国人交換留学生、日本社会、異文化理解、来日前後の変化、PAC分析法

### 1. はじめに

本研究は、日本社会における日本人と外国人の異文化相互理解について、外国人がどのように理解し評価しているのかを、個人別態度構造分析法 (Analysis of Personal Attitude Construct: PAC分析法) を用いて、認知的・情意的観点から探る一連の研究の一部である。

---

\*茨城大学全学教育機構 (〒310-8512 水戸市文京 2-1-1; Institute for Liberal Arts Education, Ibaraki University, 2-1-1 Bunkyo Mito-shi 310-8512 Japan)

本稿では、日本社会における外国人の異文化観について検討するために、韓国人交換留学生を対象に PAC 分析法による調査を実施しその特徴を探った。PAC 分析法を用いた外国人留学生の日本社会における異文化理解に関する先行研究としては、石鍋・安 (2018)、松田・安 (2018)、青木・安 (2018) などが挙げられる。石鍋・安 (2018) では、英語圏出身交換留学生 3 名を対象に多文化共生に対する理解の構造を質的分析した。その結果、被調査者は日本社会での共生を模索していることが示唆された。松田・安 (2018) では、中国人短期留学生を対象に彼らが日本において異文化をどのように理解しているのかについて探った結果、日本の社会については日本での経験からイメージを得ているが、日本留学前にはステレオタイプの日本像を持っていた者もいること、日本人との交流と理解については「日本人を理解する」という部分で重複するところが多く、理解度によっていくつかの段階があることが示唆された。青木・安 (2018) では、東南アジア出身留学生を対象に日本社会における異文化理解を探った結果、日常的に外国人と積極的に関わりを持つ日本人と外国人に対して消極的な日本人とのギャップに戸惑いを感じていること、日本留学中に置かれた環境や知り合った日本人によって日本社会や日本人に対する評価が大きく異なる可能性があることが示唆された。

そして、韓国人の日本社会への異文化理解については、これまで対日観及び日本留学観の研究を中心に行われてきた。その結果、韓国人の日本・日本人に対する主なイメージとして、1) 親切的日本人 (安 2008a, 2009, 2010, 2015a, 2015b, 2016, 安・宋 2013)、2) 他人に配慮する日本人 (安 2008a, 2009, 2010, 2016, 安・宋 2013)、3) 本音と建前を使い分ける日本人 (安 2008a, 2008b, 2016, 2010)、4) 消極的な日本人 (安 2008a, 2010, 2015a, 2016)、5) 伝統を重んじる日本人 (安 2008a, 2008b, 2010, 2014, 2015a)、6) 融通の利かない日本人 (安 2008a, 2009, 2010, 2015a, 2015b)、7) 時間に正確な日本人 (安 2009, 2010, 2015a)、8) 個人主義傾向の強い日本人 (安 2008a, 2008b, 2009, 2010, 2014, 2015a, 2015b, 安・宋 2013)、9) 仲良くなりにくい日本人 (安 2008a, 2008b, 2009, 2015a, 2015b)、10) ルール・規則を守り規範意識の高い日本人 (安 2010, 2009, 2008a, 2015b, 安・宋 2013) などが示されている。

本稿では、約半年から 1 年間交換留学生として日本に滞在していた韓国人留学生を対象に、PAC 分析法による日本社会における異文化観を調査し、1) 韓国人留学生が日本社会をどのように理解し日本人と分かり合おうとしているのか、2) 来日前後で異文化観がどのように変化したのか、について検討する。

## 2. 調査方法

調査は、1 部と 2 部に分けられる。1 部は質問紙による調査で、被調査者の属性を尋ねるフェイスシートと「日本社会に対する異文化観」に対するイメージ評価からなっている。1 部のイメージ評価の手順は以下の通りである。

- (1) あなたは「①私が生活する日本社会、②私と日本人がつきあうこと、③韓国人と日本人がわかりあうこと」などの表現からどんなイメージが思い浮かびますか？思い浮かんだイメージを「単語、または短い文」で下の【質問 I・記入例】のように【質問 I】に記入してください。上記①～③はイメージ項目に入れて、あなた自身のイメージを 7 個以上書き、全体のイメージ項目が 10 個以上になるようにしてください。
- (2) (1) で書いたそれぞれの「単語か短い文」が、プラス・マイナスのイメージに関係なく、「あなた自身の日本社会に対する異文化観」を考える時に、重要と考える順番に並べ替えてくだ

さい。

- (3) 次に、「重要イメージ」のイメージ項目同士を比較して、二つの組み合わせがどの程度近いのか、判断していただきます。最初に、①と②を比較します。①と②の関係が、直感的なイメージやその内容から見て、どの程度近いのか、次の尺度で判断して、「1、2、3、・・・」と書いてください。同じ要領で、①と③、①と④・・・というふうに、最後の組み合わせまで比較して、記号1、2、3などで書いてください。尺度は、非常に近い=1/かなり近い=2/いくぶん近い=3/どちらともいえない=4/いくぶん遠い=5/かなり遠い=6/非常に遠い=7とします。

上記(3)において作成された「重要イメージ対比表」を基に、ウォード法でクラスター分析をし、デンドログラムを作成した上で、2部のEメールによる調査を行った。まず、被調査者にクラスター分析を行ったデンドログラムを示し、各項目についての説明やクラスター分けについての解釈や、来日後の認識の変化について記述させた。そして、分類されたそれぞれのクラスターのイメージやクラスター全体のイメージについて尋ね、来日前後の変化があるかどうかについて質問した。最後に、連想項目のイメージについて、プラスイメージの場合は(+)、マイナスイメージの場合は(-)、どちらともいえない場合は(0)の記号を記入してもらい、各イメージを抱くようになったきっかけや媒体などを尋ねた。調査は、3名の被調査者が交換留学を終了した2018年2月に実施した。

### 3. 結果

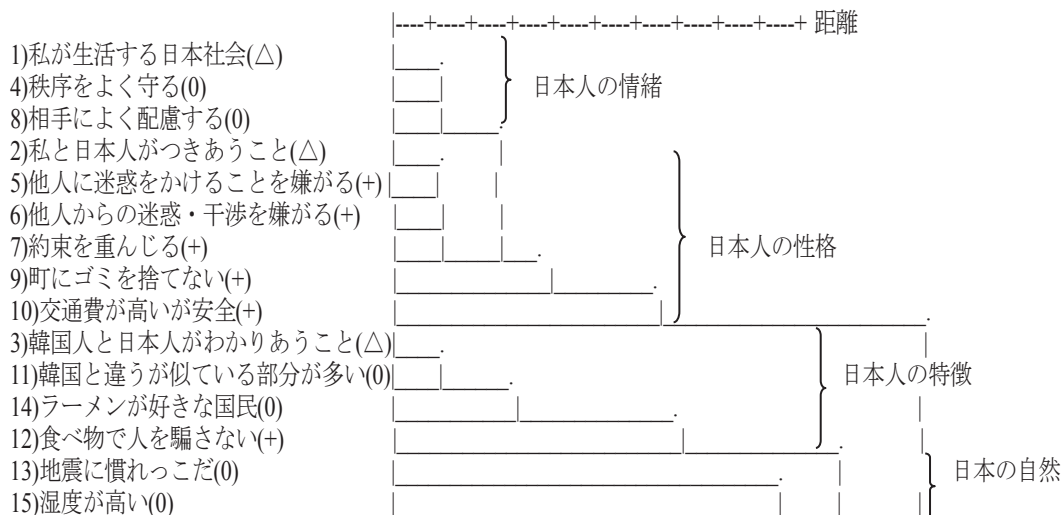
ここでは、まずクラスター分析の結果を示し、その結果に対する被調査者自身の解釈とそのイメージが形成されたきっかけについて述べる。

#### 3.1. 被調査者Aの結果

被調査者A(以下、「A」とする)は約1年間A大学に特別聴講生(交換留学生)として在籍していた。図1は「Aのデンドログラム」、表1は「Aの連想イメージを持つようになった切っ掛け」である。

クラスター1は『1) 私が生活する日本社会(△)<sup>2)</sup>』『4) 秩序をよく守る(0)』『8) 相手によく配慮する(0)』の3項目でクラスター名は「日本人の情緒」とした。クラスター1は「日本で電車に乗った時に一番印象に残ったのは、乗客が皆降りてから乗ることだった。また、バスが停車してから乗客が乗り、バスが停車するまでは降りる人も席を立たないことだ。このようなことを見てとても秩序正しい社会だと思った。また、日本人はいつでもどこにいても他人を気遣うことを身につけている。他人に迷惑になる時は『すみません』と言い、食堂でも度が過ぎるくらい客にサービスをする。日常生活で相手に配慮する気持ちを持っている。」と解釈した。来日前後の変化については「日本人は相手に配慮する気持ちが強くて、他人に迷惑をかけることも迷惑を蒙ることも嫌うと聞いたから、日本に来る前には日本人は過度な個人主義者ではないかと心配していた。しかし、日本で生活してみるとそのような感じは受けず、どこでも人によりけりという感じを受けている。また、東京では人が冷たくてドライな感じがして、暗いという印象を受けた。」と回答した。

クラスター2は『2) 私と日本人がつきあうこと(△)』『5) 他人に迷惑をかけることを嫌がる(+)]『6) 他人からの迷惑・干渉を嫌がる(+)]『7) 約束を重んじる(+)]『9) 町にゴミを捨てない(+)]『10) 交通費が高いが安全(+)]の6項目でクラスター名は「日本人の性格」とした。クラスター2は「日本人の言動を見ると、他人に迷惑をかけたがらない。日本の大学生はスケジュール帳を利用することが習慣化されている。大学になって色々大変だろうに、多くの日本の大学生は大学生になる前か



- 1) 左の数値は重要順位
- 2) 各項目の後ろ ( ) 内の符号は単独でのイメージ

図1 Aのデンドログラム

表1 Aの連想イメージを持つようになった切っ掛け

クラスター1	イメージを持つようになった切っ掛け
1) 私が生活する日本社会 (△)	×
4) 秩序をよく守る (0)	実際に見た日本人の秩序
8) 相手によく配慮する (0)	多くの日本人は配慮する心がある
クラスター2	
2) 私と日本人がつきあうこと (△)	×
5) 他人に迷惑をかけることを嫌がる (+)	実際の日本人との交流で
6) 他人からの迷惑・干渉を嫌がる (+)	実際の日本人との交流で
7) 約束を重んじる (+)	実際の日本人との交流で
9) 町にゴミを捨てない (+)	実際の体験
10) 交通費が高いが安全 (+)	実際の経験
クラスター3	
3) 韓国人と日本人がわかりあうこと (△)	×
11) 韓国と違うが似ている部分が多い (0)	実際の体験
14) ラーメンが好きな国民 (0)	日本での生活で感じた
12) 食べ物で人を騙さない (+)	メディア、実際に見て
クラスター4	
13) 地震に慣れっこだ (0)	周囲の日本人の反応を見て
15) 湿度が非常に高い (0)	日本での生活で感じた

らスケジュール帳を利用して管理して約束を大事にしてきたと感じている。日本は本当に不思議な国だ。もちろんゴミを捨てる人もたくさんいるだろうが、人が多く集まるところにゴミが一つもないこともある。こういうところは韓国が見習わなければならないことだ。日本にはゴミ箱も少ないのにきれいだ。自分さえ良ければいいという気持ちを捨てなければならないと思う。日本は交通費



が高いことで有名だ。日本に来ている留学生たちは皆、日本の交通費は高いという。もちろん韓国の交通費より高い。しかし、日本の交通は安全だ。例えば、日本のバスは多少遅いが安全を重視する。そして電車代も高いが、便利だと考える。」と解釈した。来日前後の変化については「変わらない」と回答した。

クラスター3は『3) 韓国人と日本人がわかりあうこと(△)』『11) 韓国と違うが似ている部分が多い(0)』『14) ラーメンが好きな国民(0)』『12) 食べ物で人を騙さない(+)]の4項目でクラスター名は「日本人の特徴」とした。クラスター3は「韓国と日本は違う国だが、本当に似ている部分が多い。全く同じことわざがあつて、昔から中国の影響を受けた両国の特徴が現れている。そして韓国の医薬品や食べ物が日本にもある。韓国と日本、中国は古くから近かったから、完全に同じではないが、同じ国ではないのかと思うくらい似ている部分がある。日本人は本当にラーメンが好きだ。私は小麦粉の食べ物が好きではないので、そんなにラーメンを食べていないが日本はラーメン屋が多い。知り合いから聞いた話だが、高級乗用車に乗って1000円のラーメンを食べに行くほど日本人はラーメンが好きようだ。日本人は食べ物で人を騙したりはしない。韓国も中国も頻繁に食品に関する事件が起きるが、日本でそのような事件があったという話は聞いたことがない。そのためか、日本の冷凍食品などは安心して食べられる。」と解釈した。来日前後の変化については「来日前と変わったことは、やはり日本語は思ったより韓国語と似ているという考えだ。日中韓は同じ漢字を使っていたから、昔から言葉や文化が似ていると思う。日本語と韓国語があまりにも似ていて、時々、日本語と韓国語は発音だけ違うと錯覚する。」と回答した。

クラスター4は『13) 地震に慣れっこだ(0)』『15) 湿度が非常に高い(0)』の2項目でクラスター名は「日本の自然」とした。クラスター4は「韓国でも最近大きな地震が起きたが、日本に比べたら地震が発生する頻度はかなり少ない。日本に来てかなり大きい揺れを感じる地震が何度か起きたが、その時、日本人は特別な反応はなかった。日本人の友達に地震が怖くないか、と聞いたら、少し揺れるくらいの地震には慣れているから怖くないと答えた。日本は海に囲まれているから湿度がととても高い。韓国も夏はあるが、汗を流してもすぐ乾くが、日本は湿度が高くて汗を流してもあまり乾かない。そして、日本は湿度が高いから畳部屋を使ってきたと思う。」と解釈した。来日前後の変化については「思ったより日本人は地震に慣れている。韓国で震度5.0以上の地震が起きた時に大きなニュースになったが、日本はかなり強い地震でない限り、ニュースにならない」と回答した。

各クラスター間の比較においては、クラスター1と2について「クラスター1の『相手によく配慮する』は、クラスター2の『他人に迷惑をかけることを嫌がる』と深い関係がある。他人に迷惑をかけることを嫌うから自然に相手に配慮する気持ちが生まれる。また、相手に配慮する心があると、他人に迷惑をかけない。そのため、この二つは密接な関係がある。」と解釈した。

全体のイメージについては、「日本のイメージとして最初に思い浮かぶのは『町がきれいだ』ということだ。日本を連想する時にゴミのないきれいな街、人が溢れているところでも秩序を保ち、気をつけながら行動するため、人とぶつかることはあまりない。このような慎重な態度と、相手に迷惑をかけない心があるからそのようなことが可能だと思う。また、日本の夏はととても暑くて湿度が高いが、それに見合う夏用の商品があるから生活ができる。日本の交通費は非常に高いが、それに見合った安全性と便利さがある。」と解釈した。

### 3.2. 被調査者 B の結果

被調査者 B (以下、「B」とする) は約 1 年間 A 大学に特別聴講生 (交換留学生) として在籍していた。図 2 は「B のデンドログラム」、表 2 は「B のイメージを持つようになった切っ掛け」である。

クラスター 1 は『1) 私が生活する日本の社会(△)』『3) 日本人と外国人が分かり合うこと(△)』『6) 仕事ぶりが遅い(0)』の 3 項目でクラスター名は「日本人の仕事」とした。クラスター 1 は「日本で感じたことはバスに乗った時やスーパーで買い物をする時に仕事が遅いということだ。少しイライラしたこともある。」と解釈した。来日前後の変化については「始めは日本人の仕事が遅くてイライラしたが、日本で生活してみて、日本人は仕事が遅いではなくて、非常に几帳面だということに気づかされた。几帳面だから仕事は遅くてもミスをしないうことがわかって、日本文化が理解できるようになった。」と回答した。

クラスター 2 は『2) 私と日本人がつきあうこと(△)』『8) 飲み会(0)』の 2 項目でクラスター名は「日本の飲み会」とした。クラスター 2 は「日本社会では人間関係を維持する上でお酒が重

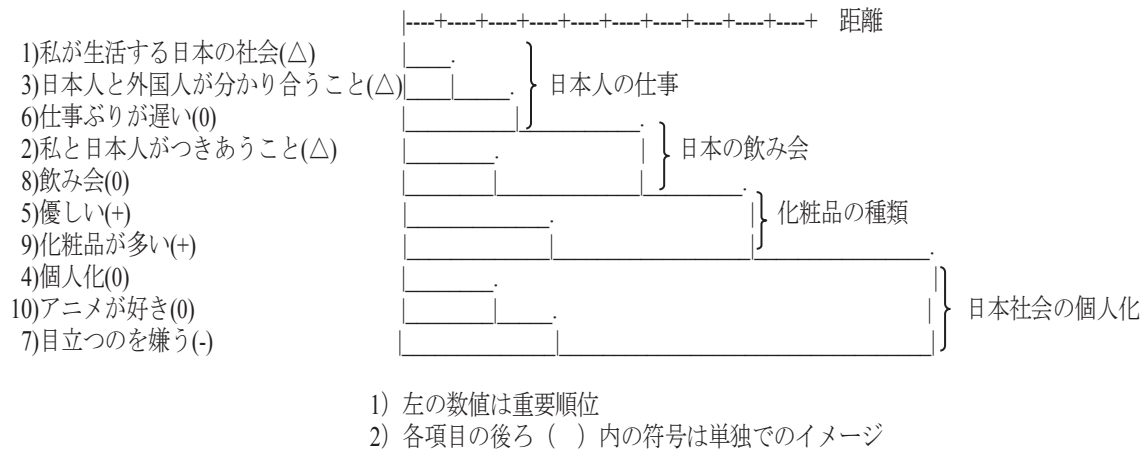


図 2 B のデンドログラム

表 2 B の連想イメージを持つようになった切っ掛け

クラスター 1	イメージを持つようになった切っ掛け
1) 私が生活する日本の社会 (△)	×
3) 日本人と外国人が分かり合うこと (△)	×
6) 仕事ぶりが遅い (0)	日本で生活して
クラスター 2	
2) 私と日本人がつきあうこと (△)	×
8) 飲み会 (0)	日本で生活して
クラスター 3	
5) 優しい (+)	実際に周りの人から助けてもらったから
9) 化粧品が多い (+)	使ってみて
クラスター 4	
4) 個人化 (0)	日本で生活して
10) アニメが好き (0)	日本で生活して
7) 目立つのを嫌う (-)	日本で生活して

要な役割を果たしていることがわかった。お酒を飲み過ぎる時もあるし、飲み会はいつもあった。」と解釈した。来日前後の変化については「韓国では日本の酒文化を引き合いに出して、韓国の酒文化は度が過ぎると批判する話や書き込みが多い。そのため、日本人はお酒をあまり飲まず、相手にお酒を勧める文化ではないと思ったが、日本に来てみると、酒が好きなのは韓国人も日本人も同じだった。」と回答した。

クラスター3は『5) 優しい(+)] 『9) 化粧品が多い(+)] の2項目でクラスター名は「化粧品の種類」とした。クラスター3は「韓国にも化粧品は多いが日本は使う人を考えて作っており、便利で奇抜なアイテムが多い。また、日本人は親切で絶対に無礼な行動をすることはない」と解釈した。来日前後の変化については「日本といえば思い出することの一つが『個人主義』なので日本人は無愛想だろうと思ったが直接交流してみると、思ったより親切だった。」と回答した。

クラスター4は『4) 個人化(0)] 『10) アニメが好き(0)] 『7) 目立つのを嫌う(-)] の3項目でクラスター名は「日本社会の個人化」とした。クラスター4は「すべての日本人がそうではないが、韓国人より落ち着きがあって一人で静かに過ごす人が多い。食堂でも街中でも一人でご飯を食べる日本人が多く、ゲームセンターに一人で行って楽しむ人も多かった。日本人は人前が出るのが嫌いで、大きな流れと一緒に流される姿が印象的だった。また、アニメや漫画のキャラクターが出てくるゲームを楽しむ、いわゆる『オタク』のイメージの日本人が多い。」と解釈した。来日前後の変化については「変わらない」と回答した。

各クラスター間の比較においては、クラスター1と2について「日本人は外国人に友好的だ。日本の酒文化は日本人と親密になるきっかけを作るのに大きい役割を果たす。」と解釈した。クラスター1と3について「上で述べたように日本人は外国人にも親切だから、外国人とすぐ親しくなれると思う。日本人の仕事が遅いのはスピードより丁寧さを重視するからだと思う。」と解釈した。クラスター2と4について「飲み会で、一人で静かに携帯電話のゲームをする人がいるのを時々見かける。こういう飲み会での行動と目立つのを嫌うことは関連があると思う。」と解釈した。クラスター3と4について「日本は個人化と他人に配慮する精神がある社会だから、他人の助けなしに一人でもできるように作られた化粧品がたくさん出ると思う。」と解釈した。

全体のイメージについては、「日本人はいつも仕事は遅いが親切で無愛想ではない。そして、日本では人間関係を維持する上でお酒が欠かせない。化粧品は、使う人が便利で奇抜な物をたくさん作っている。日本人は一人で何かすることに馴れているようだ。」と解釈した。

### 3.3. 被調査者Cの結果

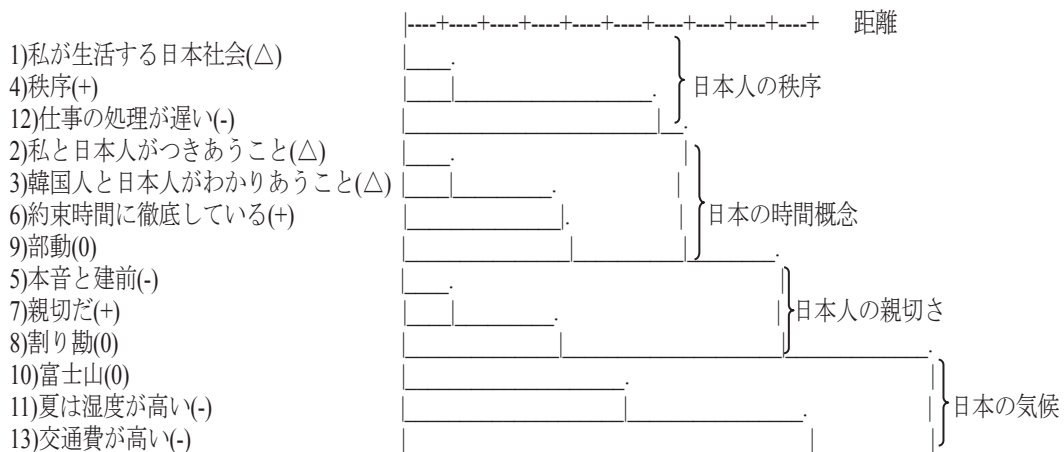
図3は被調査者C(以下、「C」とする)は約半年間A大学に特別聴講生(交換留学生)として在籍していた。図3は「Cのデンドログラム」、表3は「Cのイメージを持つようになった切っ掛け」である。

クラスター1は『1) 私が生活する日本社会(△)] 『4) 秩序(+)] 『12) 仕事の処理が遅い(-)] の3項目でクラスター名は「日本人の秩序」とした。クラスター1は「バスや地下鉄に乗る時や多くの人が移動する時に整然としている。そして、銀行や市役所、郵便局などは韓国に比べて仕事が遅い。」と解釈した。来日前後の変化については「日本に来る前に聞いていたから、変わらない。」と回答した。

クラスター2は『2) 私と日本人がつきあうこと(△)] 『3) 韓国人と日本人がわかりあうこと(△)] 『6) 約束時間に徹底している(+)] 『9) 部活(0)] の4項目でクラスター名は「日本の時間概念」とした。

クラスター2は「日本人と交流するためには部活動をたくさんしたほうがいいと思った。そして、部活動でも何でも時間をきちんと守るからお互いに理解が深まると思った。」と解釈した。来日前後の変化については「部活動をするのが交流に役立つと考えるが、時間的に余裕がなくて参加することは難しかった。」と回答した。

クラスター3は『5) 本音と建前(-)』『7) 親切だ(+)]『8) 割り勘(0)』の3項目でクラスター名は「日本人の親切さ」とした。クラスター3は「日本人と話をしたり一緒に行動をしたりすると、表向きは非常に親切に感じるが時々違和感を覚える。そして、日本人は先輩が後輩におごる時は分からないが、友達同士で一人が全部費用を払うのは変でおごってもらう人は申し訳ないと考えると



- 1) 左の数値は重要順位
- 2) 各項目の後ろ ( ) 内の符号は単独でのイメージ

図3 Cのデンドログラム

表3 Cの連想イメージを持つようになった切っ掛け

クラスター1	イメージを持つようになった切っ掛け
1) 私が生活する日本社会 (△)	×
4) 秩序 (+)	実際の経験
12) 仕事の処理が遅い (-)	実際の経験
クラスター2	
2) 私と日本人がつきあうこと (△)	×
3) 韓国人と日本人がわかりあうこと (△)	×
6) 約束時間に徹底している (+)	実際の経験
9) 部活 (0)	実際の経験
クラスター3	
5) 本音と建前 (-)	実際の経験
7) 親切だ (+)	実際の経験
8) 割り勘 (0)	実際の経験
クラスター4	
10) 富士山 (0)	たくさん話を聞いたが行ったことはないから
11) 夏は湿度が高い (-)	実際の経験
13) 交通費が高い (-)	実際の経験



感じた。それも本音と建前から生まれた考えではないかと思う」と解釈した。来日前後の変化については「韓国で日本人の本音と建前は習ったが実際に体験してみて、それをはっきり感じた。」と回答した。

クラスター4は『10 富士山(0)』『11 夏は湿度が高い(-)』『13 交通費が高い(-)』の3項目でクラスター名は「日本の気候」とした。クラスター4は「日本というと思えば浮かぶのが富士山。また、夏は蒸し暑くて、交通費も高いと思った。」と解釈した。来日前後の変化については「ない」と回答した。

全体のイメージについては、「日本人は他人の目を気にしているためか、表向きは秩序正しく、親切で、時間に徹底していて、割り勘を好む。確実さを求めているため、仕事が遅いと思う。そして学生の交流も部活動のようなグループ活動を好む。日本は海に囲まれているため、夏は非常に蒸し暑く、快適に過ごせない。また、遠くまで移動するのにお金がたくさんかかる。」と解釈した。

#### 4. まとめと今後の課題

ここでは、第3章の被調査者の解釈に基づき、韓国人留学生の日本社会における異文化観について、(1)日本社会に対する捉え方、(2)日本人に対する捉え方、(3)来日前後の変化の特徴、(4)連想イメージの特徴、に分けて考察を行う。

##### (1)日本社会に対する捉え方

日本社会については、まず、Aの『4 秩序をよく守る(0)』、『9 町にゴミを捨てない(+)]、クラスター1の「…バスが停車してから乗客が乗り、バスが停車するまでは降りる人も席を立たないことだ。このようなことを見てとても秩序正しい社会だと思った…」、Cの『6 約束時間に徹底している(+)]、『4 秩序(+)]などからルールが守られている社会として日本社会を捉えている様子が窺える。これは先行研究のルール・規則を守り規範意識の高い日本人(安・宋 2013, 安 2010, 2009, 2008a, 2015b)の結果と一致する。

また、Aの『10 交通費が高いが安全(+)]、クラスター2の「…もちろん韓国の交通費より高い。しかし、日本の交通は安全だ。例えば、日本のバスは多少遅いが安全を重視する…」、Bのクラスター1と3の比較で「…日本人の仕事が遅いのはスピードより丁寧さを重視する…」などから、安心・安全できる日本社会として捉えている様子が窺える。

##### (2)日本人に対する捉え方

日本人については、Aの『8 相手によく配慮する(0)』、クラスター1の「…日本人はいつでも他人を気遣うことを身につけている…日常生活で相手に配慮する気持ちを持っている。」、Bの『5 優しい(+)]、クラスター1と3の比較の「…日本人は外国人にも親切だから、外国人とすぐ親しくなれると思う。」、Cの『7 親切だ(+)]などから3人全員が日本人は親切だと考えている。このような日本人の他人への親切や配慮について、AとBはかなりポジティブに捉えているのに対して、Cは「日本人と話をしたり一緒に行動をしたりすると、表向きは非常に親切に感じるが時々違和感を覚える。」と解釈しており、やや異なる評価をしていることがわかる。これは先行研究の親切な日本人(安 2008a, 2009, 2010, 2015a, 2015b, 2016, 安・宋 2013)、他人に配慮する日本人(安 2008a, 2009, 2010, 2016, 安・宋 2013)の結果と一致する。

また、Aのクラスター1の「…日本に来る前には日本人は過度な個人主義者ではないかと心配していた…」、Bの『4 個人化(0)』、クラスター3の「…日本といえば思い出すことの一つが『個人主義』…」などから、日本人は個人主義であると考えているようだ。このような日本人の個人主義

に関しては、先行研究（安 2008a, 2008b, 2009, 2010, 2014, 2015a, 2015b, 安・宋 2013）の結果と一致する。

### (3) 来日前後の変化の特徴

来日前後の変化については、日本人の個人主義に関する、Aの「人によりけりという感じを受けている」、Bの「日本といえば思い出すことの一つが『個人主義』なので日本人は無愛想だろうと思ったが直接交流してみると、思ったより親切だった」の解釈から、来日後日本人との交流により、ステレオタイプ化されたネガティブな日本人像であると考えられる、『日本人は個人主義』というネガティブなイメージが弱まりポジティブなイメージへと変化している様子が窺える。韓国人の来日前のネガティブな対日イメージが来日後にポジティブなイメージへ変化することに関しては、安（2018）でも同様の結果が得られている。しかし、安（2015b）の日本永住の韓国人は「…来日当初は、日本人はとても親切だと思ったが、今はそれが本当の気持ちなのか分からない時がある」と述べており、Cと同様の日本人像を有していることから、日本人像が個人の経験によって評価が異なる可能性が示唆される。

また、「仕事が遅い日本人」に関しては、Cは留学前後の変化がないと解釈しているのに対して、Bは「几帳面だから仕事は遅くてもミスをしない」とイメージが具体化していることから、被調査者間で異なる結果が示されている。韓国人の来日前の対日イメージが来日後に具体化していることに関しては、安（2018）においても同様の結果が示された。さらに、「日韓両言語の類似性」、「地震に慣れている日本人」、「日本人の飲酒文化」は来日後にそのイメージが強くなっていることがわかったが、この結果に関しても安（2018）の結果と一致する。しかし、「日本の交通の安全性」、「個人行動する日本人」、「日本の気候」、「物価の高さ」は来日前後でイメージの変化が起きなかった。

### (4) 連想イメージの特徴

イメージ項目についての評価においては、『5) 他人に迷惑をかけることを嫌がる(+)] 『6) 他人からの迷惑・干渉を嫌がる(+)] 『7) 約束を重んじる(+)] 『9) 町にゴミを捨てない(+)] 『10) 交通費が高いが安全(+)] 『12) 食べ物で人を騙さない(+)] (A)、『5) 優しい(+)] 『9) 化粧品が多い(+)] (B)、『4) 秩序(+)] 『6) 約束時間に徹底している(+)] 『7) 親切だ(+)] (C)などはプラスイメージとして評価している。それに対して、『7) 目立つのを嫌う(-)] (B)、『12) 仕事の処理が遅い(-)] 『5) 本音と建前(-)] 『11) 夏は湿度が高い(-)] 『13) 交通費が高い(-)] (C)についてはマイナス評価をしていることがわかった。このように、韓国人留学生は、日本人の規範意識の高さについてはポジティブな評価をしているのに対して、消極的な性格の日本人に対してはネガティブな評価をしていることがわかる。

最後に、A、B、Cのイメージを持つようになったきっかけについては、Cの『10) 富士山(0)] 以外は、実際の体験に基づいたものであることがわかった。

以上、本稿では韓国人交換留学生の日本社会に対する異文化観について分析したが、日本社会についてはルールが守られている社会、安心・安全できる社会というイメージを有しており、日本人については「親切で優しい人」、「個人行動を好む人」として捉えていることがわかった。また、振り返りによる来日前後の変化については、1) ネガティブなイメージが弱まりポジティブなイメージへと変化していること、2) 来日前の対日イメージが来日後に具体化していること、3) 来日後に特定のイメージが強くなっていることが示されたが、この結果は先行研究の安（2018）と一致することがわかった。今後、日本社会の異文化理解について、長期滞在の韓国人や在日韓国・朝鮮人の特徴についても調査し、比較検討する必要があると考える。これを今後の課題にしたい。

## 付記

本研究の一部は日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究（C）（課題番号 17K02838，研究代表者：安龍洙）の助成を受けて行われた。

## 注

- 1) 本研究における「変化」とは、ある対象に対する被調査者自身によるイメージや態度について振り返り、それを評価したものを指す。
- 2) 「①私が生活する日本社会、②私と日本人がつきあうこと、③韓国人と日本人がわかりあうこと」は研究者が予め設けた項目でプラス・マイナスのイメージ評価はさせなかったため、本稿では(△)と記す。

## 引用文献

- 青木香代子・安龍洙（2018）「日本社会における東南アジア出身交換留学生の異文化理解に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究』1, 3-28.
- 安龍洙（2008a）「韓国人留学生の対日観の変容に関する一考察—個人別態度構造分析法（PAC 分析法）を用いて—」『留学生交流・指導研究』10, 31-48.
- 安龍洙（2008b）「韓国人の対日観に関する一考察—個人別態度構造分析法（PAC）を用いて—」、『ユーラシア研究』5(3), 107-125.
- 安龍洙（2009）「外国人の対日観に関する事例研究—韓国人短期留学生の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』7, pp.1-13.
- 安龍洙（2010）「外国人の対日観に関する研究—日本滞在歴の長い韓国人の場合—」『ユーラシア研究』7(4), 373-392.
- 安龍洙（2013）「外国人の対日観の変化に関する研究—中国人留学生の来日前後の対日観を比較して—」『茨城大学留学生センター紀要』11, 1-16.
- 安龍洙（2015a）「在日永住者の対日観に関する一考察—韓国人ニューカマーの場合—」『茨城大学留学生センター紀要』13, 61-73.
- 安龍洙（2015b）「日本留学経験者の韓国帰国後の対日観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』13, 1-14.
- 安龍洙（2016）「日本で就職した元韓国人留学生の対日観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』14, 93-105.
- 安龍洙（2018）「国費留学生の日本留学観の変化に関する一考察—日韓プログラム 14 期生を対象にした 4 年間の追跡調査から—」『留学生交流・指導研究』20, 97-114.
- 安龍洙・宋有宰（2013）「外国人の対日観の変化に関する研究—日本滞在歴の長い韓国人留学生の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』11, 81-96.
- 石鍋浩・安龍洙（2018）「日本社会における英語圏交換留学生の異文化理解に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究』1, 57-68.
- 松田勇一・安龍洙（2018）「日本社会における中国人交換留学生の異文化理解に関する一考察」『茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究』1, 69-84.